

## 第135回シンポジウム

アルミニウム産業におけるGHG排出量削減取組みの最前線  
The forefront of efforts to reduce GHG emissions in the aluminum industry

木村 申平

Shimpei KIMURA

## 1. まえがき

地球温暖化はCO<sub>2</sub>をはじめとする温室効果ガス（GHG）排出量の増大が要因であるとされ、その排出量の大幅な削減の実現が喫緊の課題となっている。アルミニウム産業においてもこの課題は無関係ではなく、製品リサイクルという一連のマテリアルフローの各所においてGHG排出量削減の取組みが鋭意進められている。アルミニウム産業が今後発展し続けるためには、この一連のマテリアルフロー全体でのGHG排出量を、地球温暖化に影響しないレベルにまで極限まで下げていくことが重要な課題である。そのためには、これまでの個別の取組みでは限界があり、アルミニウム産業に携わる研究者や技術者などがマテリアルフロー全体についての理解を深めて相互に協力することが必要と考えられ、本シンポジウムを企画するに至った。

2025年2月26日（水）にハイブリッド開催とし、参加者は総数69名、会場30名、オンライン39名であった。

## 2. プログラムおよび講演内容

- 1) 相 雄一郎氏（リオテントジャパン株式会社）  
「リオテントのサステナビリティへの取組みとサプライチェーンを通じた協業」
- 2) 早川 一樹氏（住友商事株式会社）  
「グリーンアルミのサプライチェーンと需給情勢」
- 3) 斉藤 健氏（Hydro Aluminium Asia Pte Ltd.）  
「Hydro社のアルミニウムリサイクルにおける脱炭素への取組み」
- 4) 松下 智一氏（株式会社ホンダトレーディング）  
「国内外におけるアルミニウム鋳造材リサイクルの取組み」

相氏からは、ボーキサイト→アルミナ→アルミニウム地金という上流における脱炭素化を中心に、リサイクル強化も含めたサステナビリティ全般への取組みと、サプライチェーンを通じた協業に向けた取組みについての現況が報告された。

早川氏からは、アルミニウム産業におけるGHG排出の現状とその削減オプションについて、また、各国における削減に向けた取組み状況について報告された。

斉藤氏からは、アルミリサイクル、それに伴う製品開発の考え方や重要性を含め、アルミニウム産業の中下流を中心



上段左から、渡邊氏（世話人）、一谷氏（世話人）、木村氏（世話人）、徳田氏（企画委員長）  
下段左から、柴柳氏（世話人）、松下氏、斉藤氏、早川氏、相氏

に、脱炭素へ向けた取組みが報告された。

松下氏からは、自動車用の鋳造材を中心に、国内外におけるアルミニウム合金のリサイクルの現状と今後の取組み、また、EV化に伴う軽量化の課題について報告された。

## 3. シンポジウムを振り返って

シンポジウムは講師4名全員に現地で講演いただき、休憩時間や終了後には講師や聴講者同士での意見交換やネットワーク活動も見られた。また講演中にはオンライン参加者からの活発な質問もあり、ハイブリッド開催は現地参加とオンライン参加それぞれの利点を活かした開催形式と考えられ、今後も継続していきたい。

日本のアルミニウム産業の更なる発展には国内だけでなく海外での取組みにも目を向ける必要があるが、今回のシンポジウムでは国際交流委員会と企画委員会での共催により、海外の事例を多く含むプログラムを構成することができた。今後も、今回の事例を活かし、委員会の枠組みにとらわれず本学会がもつ各委員会の特徴を活かした魅力的な企画を検討していきたい。環境問題への対応や取組みはアルミニウム業界全体で共通の課題であり、引き続き気候変動に関わるシンポジウム企画を継続していく。

最後に、ご多忙のところ講演を快くお引き受けいただいた4名の講師の皆様へ深く感謝を申し上げる。

世話人	富山大学	柴柳 敏哉、李 昇原
	株式会社本田技術研究所	渡邊 博之
	株式会社UACJ	一谷 幸司
	株式会社神戸製鋼所	木村 申平